

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



伊藤 延由さん(小宮)

広報いいたて8月号に掲載されていた「林野庁の実証実験の結果」について、説明文に「木材として使用しても問題ない」としている根拠を教えてください。

伊藤さんには、9月2日に村役場飯野出張所で行われた方部懇談会で、ご質問をいただきました。

ご指摘の記事は、8月号のP9に掲載した「林野庁による平成26年度村内人工林の間伐等再開に向けた実証試験について」で、林野庁が行った実証実験の結果についてお知らせしたものです。この記事中の実験結果の説明について、「木材として使用しても問題ない程度」としている根拠を知りたいというご質問でした。

林野庁などが根拠としている試算の方法について、今号のP23に詳しく掲載させていただきます。



高橋 利彦さん(小宮)

敬老会のお祝いは、基準日の年齢ではなく、当日の正確な年齢で行う方がよいのでは。高齢者ですし、お祝いが遅れるうちに体調が悪くなる人もあるかも知れません。

ご質問ありがとうございます。

現在の敬老会招待者の年齢基準日は4月1日現在となっており、敬老会は、満75歳の方を招待して開催しております。

以前の招待者は70歳以上の高齢者として開催していましたが、近隣市町村の招待年齢に合わせて、満75歳以上を招待することとし、現在に至っております。

招待者年齢の引き上げの経過措置として、当初、村で70歳同級会を5年間開催させていただき、その際に、同級生が一堂に会することは喜ばしいと、敬老会招待者を4月1日基準としたところでした。

今後とも、敬老者の皆さんに楽しんでいただけるような敬老会を開催していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

いいたて 歳時記

ならわしや季節のあれこれ

その6

結婚する時

ご指南様、今で言う仲人さんが、それぞれの家に行つて話をし、昔はほとんどお見合いで結婚相手を決めていました。結納式は、両家の親たちが集まり、婿側が嫁側に七品のめでたいものを持つて行ったそうです。

祝儀(結婚式)をし、その後、婿側でも祝儀をするために、嫁を迎えに行きました。嫁を迎えに行く係を「現参」といい、大叔父・親戚・婿添えが行きました。その伝令役が「かごうま」で、青年が長襦袢を着て一升酒を持つて婿の家から嫁の家にいき、現参が行くことを知らせると、帰りは出会った人たちに酒を振る舞いながら戻りました。

嫁の家では、「ちかむかいの式」を行い、酒を口にして清めの儀式を行いました。嫁は花嫁衣装を身にまとい、馬やトラックで家を出ました。嫁入り道具には、タンス・たらい・桶・布団・下駄箱・和裁に使う裁ち板・馬一頭などを持参しました。婿側は大盤振る舞いをし、板前や練職人を呼んで、料理や練り餅を作らせました。米粉に色を付けた練り餅は、鯛・鶴・カメ・松などの形にして、引き出物としました。新婚旅行もなかった時代。結婚式の翌日は、夫婦となった二人が日帰り嫁の家を訪れたそうです。



参考：「おばあちゃん、おじいちゃんの知恵袋」

村教育委員会発行

結婚おめでとう



| 氏名 | 出身地 |
|-------|--------|
| 菅野 翔太 | 草野 |
| 今野 絢香 | 伊達郡桑折町 |
| 新谷 晃弘 | 伊丹沢 |
| 齋藤 早美 | 深谷 |

いつまでもお幸せに



誕生おめでとう



| 赤ちゃんの名前 | 親の氏名 | 行政区 |
|-----------|--------|--------|
| 佐藤 うるはちゃん | 研太・つばさ | 伊丹沢 |
| 高野 璃くん | 淳史・鈴香 | 前田・八和木 |

すくすくと元気に育ってね

おくやみ



| 氏名 | 年齢 | 行政区 |
|-------|----|--------|
| 庄司 次男 | 93 | 関沢 |
| 松下 正義 | 85 | 草野 |
| 今野 留男 | 88 | 蕨平 |
| 佐藤 正一 | 90 | 二枚橋・須萱 |
| 佐藤 春雄 | 88 | 上飯樋 |
| 庄司 靖 | 55 | 関沢 |

ご冥福をお祈り申し上げます
(8月21日から9月16日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

村は、大震災から4年半となったこの秋を区切りとし、これまでの足跡を記す震災記録誌を制作しています。その過程で、当時のようすやその時どきの思いなどを、村民の方から改めてお聞きする機会があります。故郷だから、自分が帰って守りたい。戻れない人には申し訳ないが私は帰るよ。中学生の娘がね、日向ぼっこしてた自宅の縁側に帰りたいと今でも言うの。でもね「戻りたい。でも本当に暮らしたいけるのだから」と迷う。今は身の置き所がない気持ち。どの言葉にも胸を突かれます。▼こうした事実を村民の皆さんと共有し、支援者の皆さんや村外の皆さんにも知っていただけたら。そして未来を生きる人たちに伝わる記録誌にもなればと願います。(星)